

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 4 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370772

研究課題名(和文) 歴史学と考古学による播磨国風土記の地方神話史料群の共同研究

研究課題名(英文) Historical science and joint research by archaeology to myths in Harimanokuni-Fudoki

研究代表者

坂江 渉 (SAKAE, WATARU)

神戸大学・人文学研究科・講師

研究者番号：00221995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：3ヶ年の現地調査研究を通じて、以下の5つの研究成果を得た。  
 (1)『播磨国風土記』の地名の新しい現地比定と郡境をまたぐ「古道」の復元、(2)神話にもとづく地域社会構造分析法の構築、(3)「荒ぶる神」の鎮祭伝承へのアプローチ、(4)国造制とミヤケ制の統合研究と東播磨の地域的特性の把握、(5)6世紀以降、播磨の石棺製作の転換の解明。

研究成果の概要(英文)：We achieved the following 5 results thorough the field study on three years.:  
 (1)Local comparative identification of a place name on Harimanokuni-Fudoki, the olden Topography and Restoration on the old road where an area is straddled,  
 (2)Building of a local community structural theory through a myth study,(3)Explication of the meaning of the myth to calm a fearful god down,(4)Explication of regional characteristics in East-harima,(5)Investigation of conversion of a sarcophagus fabrication method in Harima

研究分野：日本古代史

キーワード：播磨国風土記 伊和大神 石棺 地場産業 古道 交通 印南野

### 1. 研究開始当初の背景

申請者を中心とする研究グループは、2002年以來、地元播磨の自治体史編纂への関与をきっかけとして、現地調査を踏まえた『播磨国風土記』研究を開始した。

2007～2009年度には、科研費・基盤研究(C)の交付をうけ、「播磨国風土記を通してみる古代地域社会の復元的研究」と題する研究を、また2010～2012年度には、科研費・基盤研究(C)「播磨国風土記の現地調査研究を踏まえた古代地域社会像の提示と方法論の構築」という研究をすすめてきた。

それにより、風土記の神話・伝承の前提には、村や小水系を単位とする地域社会における祭祀儀礼が存在し、そこでは共同体の結束を図る勸農の神事があるとともに、支配・隷属かかわる「食膳」(クニ占め)の儀式があることなどを明らかにした。

そのなかで新たに浮かび上がってきた課題は、風土記の神話断片に描かれる村落レベルの祭祀をおこなう個々の勢力が、より広域レベルの地域勢力や上位権力にどのように結びつき、あるいは包摂されていたのか、またそれが畿内勢力の地方支配が浸透する中で如何に変化していったかの問題である。

従来この問題については、大化前代の国造クラスの首長層と村落首長層との関係を基軸にして、前者による後者の包摂、およびそれに対する律令国制の導入による「変動」などという形で、やや図式的に議論される傾向が強かった。たとえば播磨(針間)の場合、『国造本紀』などにもとづき、「播磨国造」「針間鴨国造」「明石国造」の3国造による分割統治がおこなわれていたなどとみるのが通説的理解である。

しかし『播磨国風土記』の地名起源説話をみると、これとは異なる見方をできる可能性のある史料が含まれている。それが播磨国の北西部、宍粟郡に鎮座する「伊和大神」をめぐる説話史料群である。そこには、播磨国内のいくつかの地方神が、伊和大神の「御子神」「妹神」「妻神」「孫神」などとして語られる、「地方神統譜」とも言うべき諸伝承を見いだすことができる。

### 2. 研究の目的

そこで本研究では、この「地方神統譜」を語る『播磨国風土記』の伊和大神関連の史料に焦点をしばり、歴史学と考古学の双方から分析を加えることにした。それにより古代播磨の政治構造や地域編成のあり方を具体的に捉え、それが倭王権の進出によりどのように変遷したかの解明をめざすことを目的にした。これらを通じて、律令制以前の地域社会論や従来国造制論の見直しをはかり、また古代国家の形成過程論の進展に資するよう努力した。

### 3. 研究の方法

以上の研究目的を遂行するため、本研究で

は、つぎのような方法をとった。

第1に、これまでの調査での経験を活かしながら、風土記の中で伊和大神と「神統譜」関係を結ぶ伝承をもつ地域(里・野・川・山・丘など)の現地調査を実施する。その作業によって正確な地名比定をおこなうとともに、周辺地域の考古学データを収集し、宍粟郡を含む他地域との交流・流通の実態を探っていく。またそれぞれの地名起源説話(断片的な神話)の前提にある各土地の祭祀儀礼の復元、関与する地域集団や氏族の実態解明をおこなうことにより、伊和大神を奉斎する勢力との結びつきの中身を検討する。

第2に、伊和神社や伊和大神への信仰のあり方、あるいはその奉祭氏族の伊和一族に関連する史料の収集と分析につとめる。伊和神社の周辺地域の現地踏査をおこなうとともに、中世の「伊和神社文書」、宍粟郡外に散見される伊和氏の関連史料、また考古学データにも眼を向け、伊和氏の氏族としての性格や役割の洗い直しをはかる。また「御子神」や「部類神」など、伊和大神の場合と似かよった「神統譜」伝承をもつ『出雲国風土記』『常陸国風土記』『住吉大社神代記』など史料にも眼を向ける。それらの分析を通じて、伊和大神をめぐる「神統譜」史料群の類型的特点を明らかにする。

第3に、畿内勢力の播磨進出による政治構造の変動の問題については、伊和一族との何らかの接点をもつと考えられる石作氏をめぐる風土記伝承に光りをあて、王権による竜山石(播磨国印南郡内の良質の凝灰岩石材)の石工集団の把握の問題を基軸にした研究をすすめる。このうち石作氏については、近年の研究で、6世紀代の継体天皇 尾張系王権との結びつきの強さが指摘され(中林隆之「石作氏の配置とその前提」『日本歴史』751、2010年)、また考古学的には、竜山石の利用形態が、「長持形石棺」「家形石棺」などとは別の形式があったとも推測され始めている(魚津知克「石の宝殿と竜山1号墳、そして法道伝承」『法道仙人伝承と古代中世の播磨』、2012年)。

本研究ではこうした新しい研究成果を取り入れ、王統の交替や王権の質的差異の問題も視野に入れながら、畿内勢力の播磨進出と地元勢力の変動の問題を検討していくことにした。

### 4. 研究成果

3年間の研究期間を通じて、大きくつぎの5つの研究成果を得ることができた。

(1)『播磨国風土記』の地名の新しい現地比定と郡境をまたぐ古道の復元

『播磨国風土記』には合わせて360以上の地名が載せられている。本研究も含め、これまで科研チームメンバーは、西播磨および中播磨・北播磨を中心とする現地調査をすすめてきた。それにより、従来の通説的理解(日

本古典文学大系『風土記』、新編日本古典文学全集『風土記』など)とは異なる新知見を獲得できた。

そのうちとくに本研究では、神前郡八千軍野条と賀毛郡修布里条の比定地について、福崎町と加西市教育委員会の支援のもと、聞き取りを含む集中的な調査をおこなった。その結果、現在の兵庫県福崎町八千種余田地区と加西市吸谷町を結ぶ峠道が、古代以来の郡境を跨ぐ古道であるとの見解に達することができた。これまでの古代交通史研究では、駅路・伝馬の道など、官道を中心とする分析がたくさん蓄積されている。しかし本研究で試みたような、いわば民間古道の分析は手薄であった。この点で本研究成果は、研究史上、大きな位置を占めるものとして位置づけられる。調査結果については、坂江渉『歴史学と考古学による播磨国風土記の地方神話史料群の共同研究』(坂江渉、2016年3月刊。以下、報告書と略す)の第3部の坂江渉「神前郡と賀毛郡の郡境をまたぐ「古道」の復元-弥勒坂(吸谷道)-」において公表した。

#### (2) 神話にもとづく地域社会構造分析法の構築

これまでの研究でも明らかにしたように、古代の神話・伝承は、単なる机上の創作物や読み物でない。神話は実践的な儀礼や祭祀との関わりをもち、本来、神聖な場所と時に語られていたものを1次資料とする。したがってその中身の解明は、それが実際に語られていた場の、地域祭祀の構造や儀礼の実態分析に接近できうる可能性をもつ。

本研究ではこのような見通しのもと、現地調査を踏まえつつも、『播磨国風土記』において、郡域をまたぐ伝承がみられる「伊和大神」の神話史料群(約30例)への分析を試みた。その結果、5世紀後半~6世紀初頭頃までの播磨では、未熟ながらも記紀神話とは独立した、伊和大神を頂点にいたく地域独自の「神統譜」が形成途上にあり、その前提には、伊和大神を奉斎する勢力による地域統合の動きがあった可能性を指摘した。

これは1970年代以来の郡レベルの在地首長層による地域統合論への批判をめざすものであったが、研究そのものはその目的の1つを達成できたのではないかと考える。詳細は、報告書第3部の坂江渉「古代播磨の地域社会構造と倭王権の地域支配 - 『播磨国風土記』の神話を素材にして - 」において公表した。

#### (3) 「荒ぶる神」の鎮祭伝承へのアプローチ

『播磨国風土記』のなかの5つの事例など、現存する各国風土記(逸文を含む)には、「荒ぶる神」の鎮祭伝承を合わせて15例近く確認できる。本研究ではこれを従来の交通の「境界祭祀」論の立場ではなく、交通・流通・政治上の要地に派遣された一族の「始祖」伝承とみる視点の分析を試みた。研究のきつ

けは、上記の伊和大神神話群のなかに、唯一、伊和大神の「御子神」が祟り神として現れる事例が含まれていることによる(『播磨国風土記』揖保郡伊勢野条)。

考察の結果、播磨を含む各国の「荒ぶる神」の鎮祭伝承が、大化前代の王権や広域権力による地域編成の一断面を語る史料であること浮かび上がってきた。その成果の一端を、坂江渉「風土記の「荒ぶる神」の鎮祭伝承 - 王権と広域権力による地域編成の一断面」(『出雲古代史研究』25、2015年)として発表した。

#### (4) 国造制とミヤケ制の統合研究と東播磨の地域的特性の把握

研究分担者の高橋は、坂江が明らかにした伊和大神を奉斎する勢力からの「権力交代」「権力移譲」という観点にたつて、主に6世紀播磨の地域社会・地域編成を分析した。それによると、この時期、播磨の中心部飾磨に進出した播磨佐伯直氏が、飾磨ミヤケを管掌することを通じて、有力地域集団としての播磨直=播磨国造となったこと、また従来の国造論について、ミヤケを中心とした地縁的な地域編成の問題として捉え直す展望を得た。

また高橋は、神話史料分析を補完する意味から、『播磨国風土記』冒頭の長文の「ナビツマ伝承」(景行天皇の巡行説話)に焦点をしばり、伊和大神伝承の分布の空白地域である東播地域(明石郡・賀古郡・印南郡)の地域的一体性を明らかにした。

このうち前者の研究成果は、高橋明裕「『播磨国風土記』にみる六-七世紀、播磨の地域社会構造」(『歴史科学』220号・221号合併号、2015年)において、また後者については、高橋明裕「『播磨国風土記』からみた東播・西摂地域と交通 - 印南野の歴史的位置 - 」(『ひょうご歴史研究室紀要』創刊号、2016年3月において公表した。報告書第3部にも掲載した)。

#### (5) 6世紀以降、播磨の石棺製作の転換の解明

研究分担者の魚津は、地域間交流や比較検討の視点を重んじながら、播磨の石作集団による石棺製作のあり方にスポットをあて、それを歴史段階的に捉える研究を推進した。その結果、古墳時代中期(長持形石棺)では、製作者(石工)集団を直接把握していたのは王権および地域首長権であったが、古墳時代後期~飛鳥時代(家形石棺)になると、それが生産の拡大・地域内需要の高まりにより、倭王権との結びつきを保ちつつ、「配置された地場産業」化したことを明らかにした。

6世紀の継体王朝期における尾張系の石作集団の播磨進出の問題など、文献史学の研究成果との相互吟味は、依然、今後の課題となるが、この成果を、報告書の第3部の魚津知克「竜山石製家形石棺の生産・流通の背景」に掲載した。また本論を補完する研究成果として、漁業・製塩資料などの海産物資源の調

達・供給するシステムを分析した、魚津知克「古墳時代の近畿中央部政権による海産資源の調達と海上・湖上交通」を合わせて掲載した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 15 件)

- (1)坂江涉「飢饉は夏にやってくる -風土記の時代から中世の食料事情-」『いひほ学研究会編『いひほ研究』8、2016 年、52-61 頁、査読なし
- (2)高橋明裕「『播磨国風土記』からみた東播・西摂地域と交通 -印南野の歴史的位置-」兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』創刊号、2016 年、37-54 頁、査読なし
- (3)坂江涉「『播磨国風土記』の地名起源説話と「伊和大神」の神話」兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』創刊号、2016 年、5-24 頁、査読なし
- (4)魚津知克「日本列島側からみた百濟鉄器文化の影響」大韓民国国立清州博物館編『百濟鉄文化』国立清州博物館学術調査報告書 15 冊、2015 年、79-93 頁、査読なし
- (5)魚津知克「古代石工集団と「石の宝殿」」『月刊石材』415、2015 年、6-25 頁、査読なし
- (6)坂江涉「古代の神話と口承の祭祀儀礼 -『播磨国風土記』を中心に-」『歴史評論』786、2015 年、1-15 頁、査読あり
- (7)坂江涉「風土記の「荒ぶる神」の鎮祭伝承 -王権と広域権力による地域編成の一断面-」『出雲古代史研究』25、2015 年、91-114 頁、査読あり
- (8)高橋明裕「『播磨国風土記』にみる六-七世紀、播磨の地域社会構造」『歴史科学』220・221 合併号、2015 年、36-50 頁、査読あり
- (9)高橋明裕「播磨佐伯氏と古代の神前郡」兵庫県歴史文化遺産活用活性化実行委員会編『広域に所在する文化財群の調査と活用 -播磨国風土記関連文化財群に関する調査研究』3、2015 年、105-108 頁、査読なし
- (10)坂江涉「神前郡と賀毛郡の郡境をまたぐ「古道」の復元 -弥勒坂(吸谷道)-」兵庫県歴史文化遺産活用活性化実行委員会編『広域に所在する文化財群の調査と活用 -播磨国風土記関連文化財群に関する調査研究』3、2015 年、109-120 頁、査読なし
- (11)魚津知克(清水一文・奥山貴・山本亮氏との共著)「日笠山古墳測量報告」『大手前大学史学研究所紀要』9、2014 年、97-110 頁、査読なし
- (12)坂江涉「福崎町八千種余田と加西市吸谷町をむすぶ「古道」の復元」神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『福崎町の地域歴史遺産掘り起こし及び大庄屋三木家住宅活用案の作成等』同センター、2013 年、52-59 頁、査読なし

- (13)高橋明裕「『風土記』開発伝承の再検討 -『常陸国風土記』行方郡条-」武田佐知子編『交錯する知 -衣装・信仰・女性-』思文閣出版、2013 年、340-353 頁、査読なし
- (14)坂江涉「播磨国風土記の民間神話からみた地域祭祀の諸相」武田佐知子編『交錯する知 -衣装・信仰・女性-』思文閣出版、2013 年、354-374 頁、査読なし
- (15)坂江涉「『国占め』神話の歴史的前提 -古代の食膳と勤農儀礼-」『国立歴史民俗博物館研究報告』179、2013 年、339-361 頁、査読あり

〔学会発表〕(計 13 件)

- (1)坂江涉「『播磨国風土記』の魅力と神話の読み解き方」兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室講演会「播磨国風土記研究の新展開」、2016 年 3 月 26 日、兵庫県立歴史博物館(兵庫県)
- (2)高橋明裕「東播・西摂の国境地帯と古代の交通」兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室講演会「播磨国風土記研究の新展開」、2016 年 3 月 26 日、兵庫県立歴史博物館(兵庫県)
- (3)坂江涉「播磨国風土記の世界」兵庫県教育委員会文化財課「播磨国風土記編纂 1300 年記念シンポジウム」、2015 年 11 月 29 日、加西市健康福祉会館(兵庫県)
- (4)高橋明裕「播磨国風土記が描く「東播磨」」播磨学研究所講座「地域で読み解く播磨国風土記」、2015 年 9 月 5 日、加古川総合文化センター(兵庫県)
- (5)魚津知克「竜山石製石棺の生産・流通の展開と石工集団」兵庫県教育委員会文化財課「フォーラム播磨国風土記と石作集団」、2015 年 2 月 15 日、高砂市勤労者総合福祉センター(兵庫県)
- (6)坂江涉「古代地域社会における口承祭祀儀礼の歴史的意義 -播磨国風土記を中心に-」大阪歴史科学協議会 2014 年度 12 月例会、2014 年 12 月 13 日、クレオ大阪南(大阪府)
- (7)坂江涉「古代の境界祭祀と「荒ぶる神」伝承」第 25 回出雲古代史研究会大会、2014 年 7 月 26 日、島根県立八雲立つ風土記の丘(島根県)
- (8)高橋明裕「『播磨国風土記』にみる 6-7 世紀、播磨の地域社会構造」大阪歴史科学協議会 2014 年度大会、2014 年 6 月 15 日、関西大学(大阪府)
- (9)坂江涉「古代文書としての播磨国風土記」たつの市教員委員会「読める!古文書講座」、2014 年 2 月 23 日、たつの市埋蔵文化財センター(兵庫県)
- (10)高橋明裕「これだけは知っておきたい『播磨国風土記』の基礎の基礎」兵庫県教育委員会文化財課「播磨国風土記 1300 年記念事業フォーラム」、2014 年 2 月 8 日、加西市健康福祉会館(兵庫県)

- (11)Uozu Tomokatsu 「日本列島古墳時代成立期における技術交流と海民集団」, 第 20 回インド太平洋先史学協会大会, 2014 年 1 月 14 日, シェムリアップ市(カンボジア王国)
- (12)坂江涉 「播磨国風土記 - 「国占め」神話と「荒ぶる神」説話-」, 鳥根県古代文化センター風土記フェスタ公開シンポジウム, 2013 年 10 月 27 日, 松江テルサ本館(鳥根県)
- (13)Uozu Tomokatsu, Seino Yoichi, Fukui Wataru 「典型的な「海の古墳」としての五色塚古墳：地理的背景」, IGU2013 Kyoto Regional Conference (京都国際地理学会議), 2013 年 8 月 7 日, 国立京都国際会館(京都府)

〔図書〕(計 2 件)

- (1)坂江涉 『歴史学と考古学による播磨国風土記の地方神話史料群の共同研究 -平成 25 年～27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)研究成果報告書』坂江涉, 2016 年, 全 82 頁
- (2)坂江涉 『日本古代国家の農民規範と地域社会』思文閣出版, 2016 年, 全 438 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

研究成果の 1 つ, 坂江涉 『歴史学と考古学による播磨国風土記の地方神話史料群の共同研究 -平成 25 年～27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)研究成果報告書』坂江涉, 2016 年, 全 82 頁について, 神戸大学学術成果リポジトリ Kernel において掲載予定である。

6. 研究組織

(1)研究代表者

坂江 涉 (SAKAE, Wataru)  
神戸大学・大学院人文学研究科・  
非常勤講師  
研究者番号：00221995

(2)研究分担者

高橋 明裕 (TAKAHASHI, Akihiro)  
立命館大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：90441419  
魚津 知克 (UOZU, Tomokatsu)  
大手前大学・史学研究所・主任  
研究者番号：70399129

(3)研究協力者

- 清野 陽一 (SEINO, Youichi)  
奈良文化財研究所
- 清水 一文 (SHIMIZU, Kazufumi)  
兵庫県高砂市教育委員会

- 岸本 道昭 (KISHIMOTO, Michiaki)  
兵庫県たつの市教育委員会
- 前田 由希子 (MAEDA, Yukiko)  
兵庫県福崎町教育委員会
- 萩原 康仁 (HAGIWARA, Yasuhiro)  
兵庫県加西市教育委員会
- 藤原 光平 (FUJIWARA, Kouhei)  
兵庫県加東市教育委員会
- 中村 弘 (NAKAMURA, Hiroshi)  
兵庫県立考古博物館